

地域連携だより

Face to Face

第 48 号

役職等はすべて取材日時点のものです。

- 「地域連携だより Face to Face」は、紙面版「顔の見える会議」をコンセプトとした、主に医療職・介護関係職などの、ケアを担う多職種向け情報紙です。地域の様々な情報が皆様に共有されることで、顔の見える関係構築や相互理解推進の一助となることを目指しています。
- 地域連携だよりは、地域包括ケアシステムの充実に資する皆様の取組を広く一般にも周知するため、市ホームページで公開しています。



釜石薬剤師会×釜石市（チームかまいし）共催「多職種連携研修会」 ～釜石市のつながり支援と多職種連携～



在宅医療連携拠点チームかまいしは、職種毎に多職種連携の課題を抽出して共有した上で、課題を抱える当事者（職能団体等）の主体的な取組の支援や、場合によっては、課題解決の場や手法を提案して協働することで、職種が抱える連携の課題解決のお手伝いを行っています。

11月1日、釜石薬剤師会と市の共催による、多職種対象の研修会「釜石市のつながり支援と多職種連携」が開催されました。釜石薬剤師会とチームかまいしがこれまで共有していた連携の課題「（薬局で）心配になった患者さんをどこにつなげば…？」等と、市の「社会的処方をつなげかけとした地域づくりの取組を進めたい」という思惑をマッチングした結果、実現したもので、会場には釜石大槌地域の医療・介護・福祉（障がい）・行政関係者など多数の参加がありました。

研修会冒頭には、地域包括ケア推進本部事務局長から「釜石市包括的支援の仕組みづくり事業」の推進状況と今後の取組に関連して、令和5年度の「薬局を起点とした社会的処方連携」の取組について説明があり、その後、2つの講演と事例紹介が続きました。

▶講演①「かかりつけ薬剤師と多職種連携」

岩手県薬剤師会の熊谷専務の講演は、平成28～30年度岩手県事業「多職種連携による在宅における薬学的管理推進モデル事業」により当地域もモデル地区の一つとして取り組んだ、保健師または介護支援専門員×薬剤師の在宅患者同行訪問の取組結果の振り返りや国の動向に触れ、多職種連携の重要性について改めて訴えるものでした。

▶講演②「多職種（多機関）連携によるつながり支援について」

釜石医師会の寺田理事からは、市の地域包括ケア推進アドバイザーという立場で、健康の社会的決定要因（SDH：Social Determinants of Health）と病気に対する社会的アプローチの必要性や、健康の社会的要因に対して社会資源を活用するという考え方と方法（社会的処方）、また、社会情勢の変化に伴う地域包括ケアシステムの位置づけの変遷



岩手県薬剤師会 熊谷専務



釜石医師会 寺田理事

（高齢者対象から全世代対象へ）や福祉政策統合の流れ等についての講演がありました。

▶事例紹介「かかりつけ薬剤師が地区生活応援センターにつないだ相談患者のその後の経過について」

釜石市地域包括支援センターの萬社会福祉士からは、地域包括支援センターと生活応援センターの概要と、事例を通して両者の関係性について説明があり、薬局薬剤師の疑問に対して具体的に答える内容となりました。

釜石薬剤師会×チームかまいし恒例の「最後に皆でハイポーズ!!」



みんなで交流・つながる地域づくり@平田地区「つながるカフェ」



講師の寺田尚弘先生

「つながるカフェ」は、平田地区生活応援センターを拠点とした多機能コミュニティカフェです。地域の社会福祉法人（あいぜんの里）や地域住民などのスタッフの運営により、毎月1回開催されています。

第11回目の開催となる6月28日には、平田在住の寺田尚弘先生（釜石医師会理事）から「みんなで交流・つながる地域づくり～つながりと健康について」と題したミニ講話がありました。質疑応答の後は定例のカフェタイムと健康体操もあり、寺田先生も参加者の皆さんと一緒に楽しい時間を過ごしました。

*****寺田先生のお話より*****

- ◆長く健康に過ごすためには「筋力」と「人とのつながり」が必要
- ◆孤立には、たばこやお酒、肥満を上回るリスクあり
- ◆自分にとって居心地の良い場所を持ちましょう
- ◆『つながり』が生活を支える
自分を知ってもらえる。困った時に助けてもらえる。
情報が得られる。⇒ 時々、助ける側にもなってみよう！

寺田先生と一緒に、参加者全員で記念撮影♪



地域に集う！みんなの笑顔！いきいき100歳体操交流会



皆さんで元気に100歳体操

令和5年度いきいき100歳体操交流会が10月12日、釜石市民ホール TETTO で開催されました。

スタッフを含め約100人が集まり、体育協会の佐久間体育指導員と釜石リハビリテーション療法士会副会長の千葉理学療法士の指導のもと、軽体操や脳トレが賑やかに行われました。

また、市の保健師からは、5～6月に市内各地で行われた「シルバリンピック※」についての報告がありました。

地域活動の紹介では、唐丹地区の3団体（しゃくなげの会・本郷シニアの会・浜健康クラブ）による「ボケない音頭」が披露されました。

参加された皆さんは元気いっぱい楽しんでいました。

※シルバ（知る場）リンピック

100歳体操を1年以上続けている参加者の介護予防活動に対する意欲の向上や地域活動による充実感を体験する事などを目的とした身体・体力測定、口腔機能検査による「自身を知る場」として開催

令和5年度釜石市地域ケア推進会議

8月2日、釜石市地域ケア推進会議が釜石情報交流センター釜石 PIT で開催されました。

当市の地域ケア推進会議は、▶日常生活圏域の課題を共有するための事例検討▶前回までの課題分析結果の共有と提言案の検討▶提言後の進捗確認とフォローアップの3本柱で議事が構成されています。

今回の会議では、政策提言「住民の生活と健康を支えるつながり支援」に対する市の取組「令和4年度釜石市包括的支援の仕組みづくり事業（社会的処方契機とした地域づくり）」の実施結果及び令和5年度の取組の方向性を共有し、委員の皆さんから評価や助言をいただきました。

また、新規事例検討では、地域包括支援センターと成年後見センターが関わる事例の紹介があり、人口減少に伴う空き家問題が非常に深刻であることが改めて共有され、「身寄りのない人」や「親族と疎遠な人」をどのように支援するか等について、意見が交わされました。



介護保険制度の方向性と地域のつながり講習会



講師の後藤先生(右端)とグループワークの様子

8月3日、多職種対象の「つながり講習会」が開催されました。後藤純准教授(東海大学)を講師に「地域の力、連携の力:2024年医療・介護・福祉トリプル改定に備える」と題して、以下等についてお話していただきました。

- ★介護保険制度の今後の方向性と「地域共生社会」に向けた地域のつながり(社会的処方とリンクワーカー)
- ★「自立支援と地域づくり(地域資源を活用した自立支援型介護)」
- ★居場所づくり(つながりの効用)

グループワークでは、自信を持ってつながりを支援するために、まずは自分のための居場所(地域資源)を構想し、グループで共有しました。続いて事例検討が行われ、「こんな社会資源があったらいいな〜」と思う社会資源について議論し、上手くつながるためのアイデアを出し合いました。参加者からは「それぞれの職種の立場で意見を聞くことができて良かった」や「あっという間の時間だった」等の感想がありました。

薬剤師×保健師情報交換会(チームかまいし二次連携)



市民課
白岩係長

薬剤師会
大釋先生

薬剤師会
村上先生

薬剤師と保健師の共同作業@市内某薬局

4月17日、チームかまいしは、薬剤師と市の保健師の双方の「連携したい」というニーズをつなぎ、より顔の見える関係性をつくるために「釜石薬剤師会×保健師による情報交換会(二次連携)」を実施しました。

情報交換会では、世間話も交えて、住民のQOL(生活の質)向上のための地域包括ケアシステムの充実に向けて、それぞれの立場の現状や課題感について、忌憚なく意見が交わされました。

また、複数の具体的な協働事業の案についても話し合われ、すぐ出来る取組として、7月には市内の全ての薬局に脳卒中発症リスク軽減の普及啓発を図るポスターの配布と掲示を実施しました。薬剤師×保健師連携の今後の発展に期待です!



釜石医師会からのお知らせ



～健診・受診を起点とした社会的処方連携パス(つながるパス)について～

釜石医師会では、地域包括ケアシステムの充実のため、昨年度に引き続き釜石市との連携による「健診を起点とした社会的処方連携パス」の運用を実施いたします。

左側：生活状況調査シート
(本人が記載する)

右側：社会的処方連携パス
(医師が左のシートを参考に記載する)

各医療機関の皆様のご協力をいただき、支援が必要な方について、市の担当者を介して保健事業や福祉窓口などの必要な社会資源につなぐための試行的な取組です。

本年度においては、「健診起点」に追加して「受診を起点とした社会的処方連携パス」の運用についても試行することといたしました。

各先生方におかれましては、「つながるパス」見開きの左側のシートを参考に必要事項を記載して下さるようご協力をお願いいたします。

なお、記載されたパスについては、事務局が回収に伺います。

釜石医師会事務局 TEL0193-23-7875

🌸 医療法人晃生会 釜石リハビリセンター



釜石リハビリセンター
釜石市八雲町 2-12 ☎0193-27-7530



◆施設の概要を教えてください

令和5年8月に、八雲町に開所しました。
山田町にある医療法人晃生会近藤医院が母体です。
現在は、理学療法士1名、看護師1名、介護職員1名、管理者兼生活相談員1名、相談員1名、計5名のスタッフがいます。

◆サービス等について教えてください

職員全員が交代で、釜石市内の利用者の方の送迎を行っています。送迎サービスは、日時や場所によっては要相談となります。待合室には、テレビや飲み物もあり、トイレなども車椅子に対応できるよう広いスペースとなっています。
見学もできますので、お気軽にお立ち寄りください。

《管理者の阿部さんから多職種の皆さんへ一言》

釜石市の利用者の方は、リハビリに意欲的な方が多いと感じています。



管理者の阿部さん(左から2番目)とスタッフの皆さん

開所間もなく、まだお会いしていない方が多いので、これから皆さんと顔の見える関係を作っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

🌸 医療法人楽山会せいてつ記念病院 地域医療連携室



久保室長

◆施設の概要を教えてください

令和5年7月に、せいてつ記念病院内に開設しました。
スタッフは5名で、これまでの医療相談機能の拡充と強化を図るために、病棟の入院支援と退院支援、透析の通院と入退院支援等に、各担当者を配置しました。

入院と退院の担当者を分け、それぞれが相談を受けたり関係機関と連携することで、より充実した支援ができるようになりました。

◆モットーを教えてください

入退院支援を迅速に行うよう心がけています。
地域における一つの社会資源として活用していただきたいです。

《久保室長から多職種の皆さんへ一言》

皆さんとうまく連携が取れるようスタッフ一同頑張りますので、よろしくお願いいたします。



【発行】在宅医療連携拠点チームかまいし

〒026-0025 釜石市大渡町3丁目15番26号 釜石市地域包括ケア推進本部事務局

TEL 0193-55-4536 FAX 0193-22-6375 E-mail kea@city.kamaishi.iwate.jp

【HP】<https://www.city.kamaishi.iwate.jp/category/bunya/tiikihoukatukea/zaitakuiryourenkei/>

【FB】<https://www.facebook.com/teamkamaishi/>

QRコード読み取りでスマホからアクセスできます→

ホームページ

Facebook

